

## 障害のある学生の修学支援に関する検討会（平成 28 年度）（第 3 回）話題提供 16/06/16 (木)

株式会社 Kaien 代表取締役 鈴木慶太

## ■ 当社（株式会社 Kaien）について

2009 年創業。発達障害に特化した事業を首都圏で展開。事業は（1）人材サービス（障害者雇用）、（2）就労移行支援（障害者総合支援法）、（3）放課後等デイサービス（児童福祉法）など。

| サービス  | 就労移行（年間就職者）    | 放課後デイ   | ガクプロ    |
|-------|----------------|---------|---------|
| 利用者数等 | 160 人/日（200 人） | 300 人/月 | 120 人/月 |
| 拠点数   | 6 拠点           | 4 拠点    | 3 拠点    |

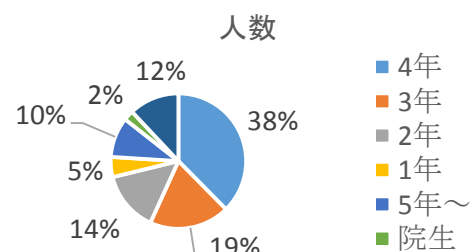
## ■ ガクプロ 発達凸凹のある大学生・専門学校生向けの『学外就活サークル』

○内容 …… 特性理解・職業訓練・就活支援・懇親会

ガクプロは発達障害（含・疑い）のある大学生・院生や専門学校生向けプログラム。学習・生活面で学生生活の伴走をしながら、最終学年を中心に就職活動支援を行っている。主なセッションは平日夕方と土曜午後。大学や専門学校に通っている方が対象である。診断がなくてもご利用可能である。なお、昨年度は国立（1 校）、私立（2 校）での出前授業（通常 5～10 回/年）を行っている。

○利用者像 …… 大学 3・4 年生が中心。学校はトップ校から小規模校まで幅広い。

- ・ 現在約 120 人の学生等が在籍。（男性 85%、大学生 85%）。
- ・ 修了・退会者を含むと過去 3 年で約 300 人が活用。
- ・ 診断は自己診断を含むがほとんど発達障害。合わせて知的障害や精神障害（二次障害）も多い。
- ・ なお利用料が月額 1 万円から 2 万円。払えないご家族もいる。



| 学年 | 4 年 | 3 年 | 2 年 | 1 年 | 5 年～ | 院生 | 既卒  |
|----|-----|-----|-----|-----|------|----|-----|
| 割合 | 40% | 21% | 15% | 5%  | 10%  | 3% | 13% |

○就職 …… 一般枠もいるが障害者枠で決まる人が多い。ただ半分程度は卒業時に決まらない。



- 過去 3 年間の卒業時までの就職率は 30～50%である。
- 一般枠の就活でスタートし、障害者枠への就活に転じる人が多い。（一般枠は春夏がメイン。障害者枠は秋冬がメインになりやすい時期的な理由もある。）
- 一般枠の場合はほとんどが中小企業であり、上場企業などの大企業は少数。障害者枠は大企業である。

## ■ 気づき

○ “障害” というキーワードで結びついていない人の多さ。

○ 留年率・中退率の高さ。就職活動に辿り着けない学生の多さ。

○ 就職課での障害学生への専門性の弱さ（※）。

（※）多くは民間業者主催の障害学生の合同説明会に参加を促すが、身体障害中心である場合が多い。（以下は民間業者の求人票にある 18 項目の障害区分。知的や精神・発達が求められていないのがわかりやすい。）上肢障害 下肢障害 体幹障害 運動障害 視覚障害 聴覚障害 言語障害 平衡障害 心臓障害 腎臓障害 肝臓障害 呼吸器障害 膀胱障害 直腸障害 小腸障害 知的障害 精神障害 その他

○ 卒業後も支援を続けられるという、支援側の焦りの無さ。

## ■ 提起すべきポイント

○ まずは単位を順調に取る支援を充実させてほしい。外部での活動への単位取得、夜間などでの単位取得など幅を持たせてほしい。

○ 多くの場合、当事者である学生に支援を求めるという視点が希薄である。低学年のうちからプログラムを用意し、支援窓口につながる癖をつけさせてほしい。

○ 就活では特に小規模校・地方大学の場合、各大学で障害学生への対応は遅れがちになる。大学同士のつながりや、地域の支援機関（新卒応援ハローワーク、就労移行支援機関等）とのつながり、さらには親とのつながりを充実させる施策をとりやすい指針になってほしい。